

【資料2】

学校適正配置のシミュレーション【小林中学校区】(案)

項目	小林小学校	小林北小学校	小林中学校
①所在地	印西市小林2448-2	印西市小林北5-1-5	印西市小林大門下1-4-1
②開校年	明治7年	平成3年	平成2年
③普通教室保有数	総数15教室	総数15教室	総数15教室
④児童生徒数の推移	R4:254名→R10:245名 ※9名の減	R4:156名→R10:79名 ※77名の減	R4:175名→R10:208名 ※33名の増
⑤通常学級数の推移	R4:9学級→R10:10学級 ※1学級の増	R4:6学級→R10:6学級 ※増減なし	R4:6学級→R10:6学級 ※増減なし
⑥特別支援学級数の推移	R4:3学級→R10:3学級 ※増減なし	R4:2学級→R10:2学級 ※増減なし	R4:2学級→R10:3学級 ※1学級の増
⑦学校規模の推移	R4:準適正規模→R10:準適正規模	R4:小規模→R10:小規模	R4:準適正規模→R10:準適正規模
⑧通学区域 ※遠距離通学者は、 R4.5.1 時点の在校生	・東西:約2.3km ・南北:約2.3km ・遠距離通学者:直線約1.3km 道路約2.3km	・東西:約1.5km ・南北:約2.0km ・遠距離通学者:直線約0.8km 道路約1.6km	・東西:約3.1km ・南北:約2.3km ・遠距離通学者:直線約3.0km 道路約3.3km
⑨スクールバスの運行	なし	なし	なし
⑩学区外就学の状況(出) ※各年5月1日現在 ※学区の児童生徒数は 4月1日現在	R4:3名/学区の児童数:256名 (割合:約1.2%) R3:3名、R2:5名 主な就学先:小林北小	R4:1名/学区の児童数:154名 (割合:約0.6%) R3:0名、R2:2名 主な就学先:小林小	R4:10名/学区の生徒数:189名 (割合:約5.3%) R3:10名、R2:7名 主な就学先:滝野中
⑪学区外就学の状況(入) ※R4.5.1 現在	6名 主な指定校:本埜小	4名 主な指定校:小林小	9名 主な指定校:本埜中

<児童生徒数・学級数の推移>

学校名	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
小林小学校	237	9	262	10	272	11	281	12	271	11	257	11	245	10
小林北小学校	150	6	131	6	126	6	115	6	101	6	88	6	79	6
小林中学校	164	6	168	6	177	6	179	6	189	6	205	7	208	6

※児童生徒数及び学級数は、通常学級で整理している。

＜小林中学校区における学校適正配置シミュレーション（案）の考察＞

実施方策	学校適正配置の組み合わせ	学校規模	施設受入面	特記事項
①通学区域の見直し				・通学区域の見直しを行っても、適正規模化するのは難しい。
②学校選択制の導入 (ブロック選択制)				・特定の学校に希望が集中することにより、学校規模が小規模化するおそれがある。
③学校選択制の導入 (特認校制)	小林北小学校における小規模特認校制度の導入			・令和5年度から実施する船穂小学校における小規模特認校制度の効果の検証が必要である。
④学校選択制の導入 (特定地域選択制)				・特定地域選択制を導入しても、適正規模化するのは難しい。
⑤学校の統合	小林小+小林北小	適正規模	小林小：○ 小林北小：○	・学校規模が適正規模になる。 ・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。
⑥学校の統合	小林小+小林北小 +小林中 ⇒新 義務教育学校 (施設一体型)	・前期課程 →適正規模	小林小：× 小林北小：× 小林中：×	・前期課程が適正規模になる。 ・学校施設の増改築等の対応が必要となる。 ・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。
⑦学校の統合	小林小+小林北小 +小林中 ⇒新 義務教育学校 (施設分離型)	・後期課程 →準適正規模		・前期課程が適正規模になる。 ・施設受入面等を考慮した学年段階の区切りの設定や合同授業・交流活動の効率化などについて検討が必要となる。 ・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。

※施設受入面：○…受入学校の教室総数≥学校適正配置シミュレーション後のR10学級数+R10特別支援学級数

×…受入学校の教室総数<学校適正配置シミュレーション後のR10学級数+R10特別支援学級数

【参考】児童生徒数・学級数の推移（学校の統合後）

学校名	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
新 義務教育学校（前期課程）	393	13	398	13	396	13	372	13	345	12	324	12
新 義務教育学校（後期課程）	168	6	177	6	179	6	189	6	205	7	208	6
新 義務教育学校（全体）	561	19	575	19	575	19	561	19	550	19	532	18

※児童生徒数及び学級数は、通常学級で整理している。

※R10 特別支援学級数：前期課程 3 学級・後期課程 3 学級